

東日本大震災後 1 年に際する外務大臣レセプション

平成 24 年 3 月
地方連携推進室長 古沢洋志

今回は、3 月 1 2 日に外務省飯倉公館において行われた、玄葉外務大臣主催による東日本大震災後 1 年に際してのレセプションにつきご報告します。

このレセプションの目的は、大震災から 1 年を機に、犠牲者への追悼、震災時に於ける各国支援に対する謝意の表明、また、風評被害対策の一環にも成り得る、被災地を中心とした我が国の復興をアピールすることにあります。

レセプションは、在京外交団、関係在京国際機関、被災地出身国会議員、被災地支援に携わった在日米軍関係者など約 3 0 0 名の方々の出席を得て行われましたが、大きな会場が出席者で溢れ、文字通り「寿司詰め」状態となりました。

プログラムの内容は、まず全員で犠牲者の方々への哀悼の意を表す黙祷を行った後、玄葉大臣から各国大使に向けて、概要次のような話がありました。

- (1) それぞれの国の方々から様々な支援を受けたことに対する深謝。
- (2) 大臣の出身地である福島県の会津地方の放射線量は、海外で思われているような高いものではなく、ソウルやニューヨークのそれと同じ値であること。よって各国が講じている規制緩和にぜひ協力頂きたいとのお願い。
- (3) 今後共、我が国は被災地の復興への取り組みを世界に発信し、復興に関し世界の英知を頂戴していきたい。その為の一例として、7 月初旬に仙台を中心に被災三県で「大規模自然災害に関するハイレベル国際会議」の開催を予定していることの報告。

次に、イスラエルの医療チームの受け入れに尽力された佐藤勇・宮城県栗原市長に、被災地の関係者を代表してご挨拶を頂きました。佐藤市長は、イスラエル医療チームの南三陸町における活動を通し、「全力で被災地を支援する」という意識の高さを感じ、そのことに大変感銘を受けたと述べておられ、改めて、医療チーム並びにイスラエル政府に対し謝意を表明されました。

続いて、仙台在住のカナダ・日本人混成バンドであり、また外務省復興発信使でもある「MONKEY MAJIK」の 4 人のメンバーそれぞれから支援活動に従事した在日外国人を代表して挨拶がありました。

更に、出席の国会議員を代表し、渡部恒三衆議院議員（民主党最高顧問。福島県出身）からも外交団に対し謝意が表明され、「福島県民は苦難の中にあるが、未来志向のスローガンを得て必ず復興することを決意した」旨、強い復興への意志表明がありました。

最後に、昨年の全日本合唱コンクール全国大会において、金賞と1位に当たる文部科学大臣賞を受賞し、金賞は32年連続33回目となり、全国トップクラスの実績を誇る福島県立安積黎明（あさかれいめい）高等学校合唱部の生徒さん29名によって、「しあわせ運べるように」、「ふるさと」の二曲の披露がありました。会場からは、その澄んだ歌声に感銘を受け、すすり泣く女性の声も聞こえていました。

また、会場では、岩手、宮城、福島から各地の食材を使った料理、並びにお酒を提供して頂くと共に、被災三県の東京事務所からはそれぞれの物産等をブースに展示頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。

当室では、佐藤市長並びに安積黎明高等学校合唱団の生徒さん達のレセプションへのご参加及びご出演について、微力ながらお手伝いさせて頂いたこともあり、特別にお礼を申し上げたいと思います。遠路遙々お出で頂き、このレセプションを心温まる良き集いにして頂けたことを当室と致しまして大変嬉しく思っております。有り難うございました。また、栗原市の関係者の方々、高等学校の引率の先生方にも改めて感謝致します。